



2007 度採集観察会

1. 期 日： 第1回 5月13日(日) 第2回 7月8日(日)
第3回 10月14日(日) 第4回 2月3日(日)
2. 場 所： 都筑区中央公園(神奈川県横浜市)
3. 集 合： 横浜市営地下鉄「センター南」駅 10時30分(公園まで徒歩5分)
4. 世話人： 萩本房枝

公園内では談話会会員であることを示す名札が必要です。集合時間に遅れた方は090-6319-0603(萩本)まで連絡してください。

2007 年度合宿について

東京蜘蛛談話会 2007 年度合宿は東京都奥多摩町・日原川流域の林道等で行います。30名程度集まりますと宿が貸しきりになりますので、多くの皆さんの参加をお待ちしております。

日 程：2007年7月21日(土)～7月23日(月)

宿 泊：奥多摩温泉郷 【観光荘】 東京都奥多摩町氷川 1765

Tel 0428-83-2122

費 用：宿泊費(1泊3食付き 旅行保険+通信費込み)

大人 10000 円，中学生 7500 円，小学生 6000 円

計画の詳細や申し込みについては別紙をご参照ください。

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 3800 円，学生 2000 円です。

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費のことは：会計担当 安田明雄 〒231-0861 横浜市中区元町 5-219

TEL：045-641-0763 E-mail：kobato@gol.com

東京蜘蛛談話会例会

2006年11月26日 東京環境工科専門学校にて



参加者一同

1. 開式：事務局 初芝伸吾
2. 自己紹介とクモについて疑問など四方山話
3. 講演
 - (1) 電子顕微鏡でみたクモの微細構造 (5) 梅林 力
 - (2) 今日の献立 仲條竜太
 - (3) ベランダ「ピオトープ」の試み 都市マンションにコガネグモを居つかせるには？
八幡明彦
 - (4) 日本産ハシリグモ類の再見直し 谷川明男
 - (5) トカラ列島中之島日記 谷川明男
 - (6) 日本産カラカラグモ未記載種について (1) 平松毅久
 - (7) 環境アセスメント調査の問題点 新海栄一
4. 閉式
5. 懇親会

東京蜘蛛談話会例会総会

2007年4月15日 東京環境工科専門学校にて



参加者一同

1. 開 式
2. 自己紹介とクモについて疑問など四方山話
3. 講 演
 - (1) 網を張るコモリグモ ババコモリグモの生活史一断片 平松毅久
 - (2) ダストマーキング法のクモへの応用 中西亜耶
 - (3) チビサラグモがいっぱい 谷川明男
 - (4) 赤いハグモの正体は? 新海 明
 - (5) GIS 地図によるイソコモリグモの生息域推定 八幡明彦
 - (6) どちらがお好き? スジプトハシリグモの給餌実験 仲條竜太
 - (7) ワスレナグモの全国分布調査 新海 明
4. 閉 式
5. 懇親会

入退会は：事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 (有) エコシス
E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

2007 年度東京蜘蛛談話会総会議事録

日時：2007 年 4 月 15 日（日）13：00～13：30

場所：東京環境工科専門学校（東京都渋谷区）

配付資料：2006 年度決算（案），2007 年度予算（案）

議事

- 1．議長選出：会員の拍手をもって梅林氏が議長に選出された。
- 2．2006 年度活動報告
 - 1）事務局に関する報告（初芝）：機会ごとに会員募集をした。
 - 2）採集観察会報告（木村）：神奈川県片倉城跡にて 4 回実施，170 種以上のクモが記録された。毎回 10 人以上の参加があった。
 - 3）合宿報告（新海明）：7 月 21 日～23 日，島根県邇摩郡温泉津温泉にて実施された。
 - 4）通信に関する報告（谷川）：談話会通信を予定通り 3 回だした。次号は第 1 回観察会前を予定。
 - 5）会誌に関する報告（木村）：KISHIDAIA を予定通り 91 号 92 号を発刊。谷川が編集作成し，木村が発送。
 - 6）2006 年度会計報告・決算報告（安田）：2006 年度決算（案）は安田によって報告された。梅林により監査の報告がなされ，会員の拍手をもって 2006 年度決算は承認された。
- 3．2007 年度活動計画
 - 1）バックナンバー販売提案（初芝）：キシダイアのバックナンバーの販売について提案がなされ，承認された。
 - 2）採集観察会（萩本）：採集観察会について
場所：横浜市都筑区都筑中央公園（5/13，7/8，10/14，2/3）
 - 3）合宿（初芝）：7 月 21 日（土）～23 日（月）東京都奥多摩にて開催予定
担当 初芝・甲野 宿泊場所：東京都西多摩郡奥多摩町氷川国民宿舎観光荘を予定
 - 4）通信の発行（谷川）：5 月，9 月，2 月を予定。原稿は発刊月前の月末まで。
ほほえましい原稿を募集。
 - 5）キシダイアの発行・発送：予定通り 2 回予定。印刷所を変更する。
 - 6）2007 年度予算について（安田）：2007 年度予算（案）が安田によって報告され，会員の拍手をもって 2007 年度予算として承認された。2006 年度会員動向について報告がなされた。
- 4．議長解任
- 5．閉会

注意：すべて敬称省略。 文責 甲野

2006 年度決算

東京蜘蛛談話会

収入の部

項 目	決算額(¥)	備 考
1.会費	1,024,400	
内訳 (1)郵便振替	982,600	欄外 1
(2)直接受取	41,800	
2.寄付等	2,000	欄外 2
3.雑収入	0	
4.別刷り代	26,620	
5.利息	34	
収入合計	1,053,054	
6.繰越金		
(1)06 年度以降前納会費	438,400	
内訳 a.06 年度分	360,400	
b.07 年度分	66,600	
c.08 年度分	11,400	
d.09 年度分	0	
(2)特別会計(プール金)	560,823	
繰越金合計	999,223	
合計	2,052,277	

支出の部

項 目	決算額(¥)	備 考
1.会誌作成	381,150	
2.会誌発送	34,540	
3.別刷り作成・発送	32,450	
4.談話会通信	191,964	
5.事務局等通信費	35,515	
6.事務用品等	0	
7.予備費	0	
支出合計	675,619	
8.繰越金		
(1)07 年度以降の前納会費	464,800	
内訳 a.07 年度分	411,000	
b.08 年度分	46,200	
c.09 年度分	7,600	
(2)特別会計(プール金)	911,858	
繰越金合計	1,376,658	
合計	2,052,277	

繰越金の預け先:郵便貯金(普通)	¥1,126,079
振替口座	¥135,400
現金	¥115,179
合計	¥1,376,658

欄外 1: 06 年度会費は、前納分とあわせて 998,000 円受領

欄外 2: 今年度、萱嶋満喜さんから寄付をいただきました。

以上相違ありません。2007 年 4 月 15 日 会計 安田明雄 会計監査 梅林 力

2007 年度予算

東京蜘蛛談話会

収入の部

項 目	金 額(¥)	備 考
1. 07 年度会費	747,600	3,800 円*192 人+2,000 円*9 人 欄外 1
内訳 a.07 年度前納分	411,000	
b.07 年度納入分	336,600	
2. 寄付	0	
3. 雑収入	0	
4. 別刷り代	30,000	
5. 利息	30	
収入合計	777,630	
6. 繰越金		
(1)08 年度以降の前納会費	53,800	
内訳 a.08 年度分	46,200	
b.09 年度分	7,600	
(2)特別会計(プール金)	911,858	
繰越金合計	965,658	
合計	1,743,288	

支出の部

項 目	金 額(¥)	備 考
1. 会誌作成	500,000	250,000 円×2 回(92,93 号)
2. 会誌発送	35,000	
3. 別刷り作成・発送	30,000	
4. 談話会通信	150,000	50,000 円×3 回(120,121,122 号)
5. 事務費・通信費	40,000	欄外 2
6. 事務用品等	5,000	
7. 予備費	10,000	
支出合計	770,000	
8. 繰越金		
(1)08 年度以降の前納会費	53,800	
内訳 a.08 年度分	46,200	
b.09 年度分	7,600	
(2)特別会計(プール金)	919,488	
繰越金合計	973,288	
合計	1,743,288	

欄外 1: 3,800 円×192 人+2,000 円×9 人-411,000 円(前納)=336,600 円

欄外 2: 事務局 5,000 円, 編集 5,000 円×3 人, 通信 6,500 円, 会計 5,000 円
通信費, 振込手数料等 8,500 円

2006 年度会員動向

2006 年 4 月 1 日時点の会員数 206 名

入会 11 名, 退会 16 名(希望 2 名, 規約 14 名)

2007 年度 4 月 1 日現在の会員数 201 名(一般 192 名, 学生 9 名)

土壌動物の展示会の紹介

萩野 康 則

土壌動物に関する展示会が 2 本、相次いで開催される。一方は現在開催中で、もう一方も 5 月中旬に始まる予定である。土壌動物の展示会が開催されること自体珍しいが、それが 2 つも続くのだからこんなことはもう二度と無いかも知れない。いずれもクモも取り上げられているし、当会会員にも協力者がおられるので、ここで紹介させて頂く。

(1) ミュージアムパーク茨城県自然博物館 第 39 回企画展「ありんこアントの大冒険 土の中の生きものを探せ！」 2007 年 3 月 17 日(土)～6 月 17 日(日)

私の自宅から近いので、同館にはちょくちょく見学に行くが、今回の企画展は過去 39 回開催されている企画展の中でも、おそらく五指に入る出来栄えだと思う。

同館の最近の企画展は「子どもが遊べる空間」「人間とのかかわり」「生体展示」を盛り込む傾向にあるが、今度もそれらが全て揃っている。

今回の目玉は土壌動物の巨大段ボールアートである。まず会場入口で、超特大のダンゴムシが出迎えてくれる。この他に 10 種の土壌動物の段ボールアートが展示室の中央にシンボリックに配置され、その下が段ボール箱の迷路になっていて、子ども達が自由に遊べる空間になっている。

段ボールアートと並ぶもう一つの目玉は、写真家皆越ようせいさんの、土壌動物の素晴らしいクローズアップ写真の数々である。プリントアウトしたものの他にも、モニターでスライドショー風に流されており、静止画なのに動きのある、面白い展示になっている。

メインの展示は、やはり多様な土壌動物の姿を紹介するものが主で、アリ、糞虫、オサムシ、ハネカクシ、多足類、等脚類、ミミズ、ヘビ、モグラ等、分類順には関係なく見場のよいものやインパクトがあるものが、最初にずらりと並んでいる。その後、もっとおとなしい無翅昆虫や陸貝、蛛形類が続く。プレパラート標本や拡大模型もある。

多様性の展示のあとに、生態に関する展示が少しあり、最後に人間とのかかわりのコーナーがある。子どもの遊びの中の土壌動物、土壌動物の利用(食品・薬など)、土壌動物グッズなど。クマムシのぬいぐるみ! がとても可愛い。

生きた巨大なムカデ、ヤスデ、サソリも展示されているが、中でも珍しいのは生きたシーボルトミミズであろう。これは、皆越さんが郷里の熊本で採集してこられたもので、関係者は「いつまで生きていてくれるか」と気を揉まれているようだが、オープンから 1 カ月の段階ではまだ元気に動いていた。

交通はやや不便だが、わざわざ出掛けても損のない内容だと思う。

最後に、クモとその他蛛形類の展示品をざっと列挙しておく(見落としがあるかもしれないが、お許し願いたい)。

クモ類

・液浸標本 シボグモ ヒノマルコモリグモ イタチグモ チャクロワシグモ ヤミイロカニグモ ヨダンハエトリ フジイコモリグモ

- ・生体展示 ジグモ
- ・拡大模型 イマダテテングヌカグモ
- ・段ボールアート ジグモ
- ・写真 オチバカニグモの一種 アオオビハエトリ
- ・映像 ジグモ採り
- ・グッズ オオツチグモ?のフィギュア

その他蛛形類

- ・液浸標本 ウデナガサワダムシ
- ・乾燥標本 ヤエヤマサソリ マダラサソリ タイワンサソリモドキ
- ・樹脂包埋標本 オオナガザトウムシ ヒコナミザトウムシ アカサビザトウムシ
- ・プレパラート標本 チビコケカニムシ ツルギイレコダニ
- ・生体展示 チャグロサソリ ダイオウサソリ
- ・拡大模型 オオコケカニムシ ムネトゲツチカニムシ オオイレコダニ チビゲフリソデダニ
- ・段ボールアート カニムシ
- ・グッズ サソリぬいぐるみ サソリ唐揚げ 乾燥サソリ(漢方薬)

【問い合わせ先】

〒306-0622 茨城県板東市大崎 700
ミュージアムパーク茨城県自然博物館
Tel:0297-38-2000 Fax:0297-38-1999
<<http://www.nat.pref.ibaraki.jp/index.html>>

(2)日本土壤動物学会第30回大会記念巡回展示「土の中の小さな動物 土壤動物入門」
日本土壤動物学会では今年が第30回の節目の大会を迎えるのを記念して、各種の行事を企画している。その一環として、一般の方々の土壤動物への興味を喚起し、また土壤動物学会の存在をアピールするために、巡回展示「土の中の小さな動物 土壤動物入門」を開催する。この展示は、一応私が準備責任者になっており、本稿を書いている。2007年4月25日現在、展示物は鋭意作成の途中である(おいおい!)。従って、まだ流動的な部分もあるが、現在判っている範囲での概要を、以下に示すことにする。

【会期と会場】

2007年5月15日(火)~2007年5月30日(水) 横浜国立大学附属図書館

2007年7月23日(火)～2007年8月31日(金) 森林総合研究所
2007年9月19日(水)～2007年10月28日(日) 千葉県立中央博物館
2007年11月13日(火)～2008年4月6日(日) 栃木県立博物館
2008年4月26日(土)～2008年6月1日(日) 富山市科学博物館
2008年7月16日(水)～2008年9月15日(月) 十日町市立里山科学館キョロ口
2008年9月30日(火)～2008年11月3日(月祝) 森林総合研究所多摩森林科学園

【展示構成】

展示の中心は文字と写真によるパネルで、展示スペースや機材が使用可能であれば実物や標本、拡大模型を補助的に用いる。

【内容】

(1) 土壌動物とは

- ・土壌動物の定義、役割、形態的特徴、採集・観察方法等

(2) 土壌動物各群紹介

- ・原生動物から脊椎動物まで、主要な土壌動物群を紹介

(3) 簡単な観察法・調査法の紹介

- ・簡易ツルグレンの作製法と使用法、土壌動物による環境評価法など

(4) 関連図書・学会紹介コーナー

- ・会員が書いたものを中心とした土壌動物に関する書籍とウェブサイトの紹介、土壌動物学会とメーリングリスト「doronet」の紹介と入会方法など

(5) 会員撮影の土壌動物写真

- ・会員から応募された土壌動物の画像を展示

(6) 皆越ようせい氏撮影の土壌動物写真

- ・会員で動物写真家の皆越ようせい氏撮影の画像を展示

(7) その他、各機関で独自の企画があれば加える

ただし、開催機関によって展示スペースや使用できる仕器が異なるため、会場によっては、(5)-(7)は展示しないこともある点を、お含み置きたい。

【問い合わせ先】

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2
千葉県立中央博物館 動物学研究科 萩野康則
Tel:043-265-3274 Fax:043-266-2481
<mailto:hagino@chiba-muse.or.jp>

トカラ日記

谷川明男

2006年7月3日

鹿児島港 23:00 出航のフェリートカラ丸で最初の目的地中之島を目指した。中之島に着くのは朝の 6:15 である。寝不足で体力を落とさないようにと考えて、追加料金を払って寝台に乗ったのだが、結局よく寝られなかった。どこでも眠ることができた若いころが懐かしい。

7月4日

中之島の港にはこれから宿泊する大喜旅館の女将さんが迎えに来てくれていた。この船で来た宿泊客は、私を含めて全部で5人であった。常連らしい人に、ちょっとここ持ってきてという軽のパンの後のドアを開けたままにしてもらっている。さびてすぐ閉じてしまうので、押さえておかないといけないという。どこかのホームページに書いてあったすごい田舎だという内容がなんとなく納得できるできごとであった。また、この島には商店はないということだったが、ほんとうになかった。ただ、自動販売機は港のそばに2台、郵便局の前に1台、旅館に1台あり、旅館の自動販売機ではビールを売っていたので、飲み物には不自由はせずに済んだ。

宿に着くと部屋に案内され、荷物を置くやいなや朝食であった。鹿児島からのフェリーはいつも早朝に着くから、これがこの島のスタイルなのだろう。もっとも、旅館で食事を出してくれなければ、食事を取る手段はまったくないのだ。島外から来る人がお金を使うことができるのは、旅館と郵便局と自動販売機と乗船券を購入する役場だけである。

しばらく休んで、早速、クモ採りに出かけた。この旅行は、チリイソウロウグモの採集を目的に、馬場君がスポンサーになってくれている。集落の周囲の耕作地でチリを探すことにした。先月出かけた渡名喜島に続いて、今回のトカラでもレンタカーがないので徒歩で移動しなくてはならない。幸い鹿児島はまだ梅雨が明けておらず、雲の多い天気なので比較的動きやすい。この島にはクサグモがない。棚網はコクサグモのものだ。大きな円網種はオオジョロウグモである。へんな取り合わせだ。クサグモがないのでスズミグモを探した。なかなか見つからない。結構よい感じの空間はあるのだが、スズミは全く見あたらない。また、トタテグモやキムラグモもけっこう気にして探したが見つからなかった。森ではニイニイゼミが盛んに鳴いている。リュウキュウアカ



中之島を出港するフェリートカラ丸
この後一週間この姿を見ることはなかった

ショウビンの声や、ホトトギスの声も多い。林内を通り抜けている道路の脇でウズグモ類を見つけた。さて、中之島のもは新種だろうか。そろそろ帰ろうと思ったところによい感じの沢があった。オオハシリかアオグロハシリか、どちらがいるのか夜に見にきたいが、ここは遠い。水の流れの多い島だから他にも沢はあるだろう。ふと気がつく靴に小さなヒルがついている。この島にはヒルがいるようだ。原因はトカラヤギか？結局、チリを見つけることはできずに坊主で宿に戻った。

曇り空とはいえ、やはり暑い。汗だくになってしまったので、シャワーを浴びようとしたが、部屋にはついてない。客室の並びを見てもトイレはあるが浴室の表示はない。ありゃりゃと思って宿に人に聞くと、地区の共同温泉を使ってくれという。誰でも自由に使える共同温泉が島に3つあるのだそう。掃除などの管理は各地区の人が輪番であたっているらしい。温泉にただで入れるのはいいが、そこまで歩いていかななくてはならない。雨でも降った日には困ったものだ。

夕食時、女将さんに言われた。「南のほうに台風がいますね。お客さんどうしますか？明日の船で帰りますか？台風が来ると船は一週間来ませんよ」と。私は、「せっかく来たので、ゆっくりしていきます」と答えたのだが、実はほんとうにそうだったのである。



新種かと期待したウズグモ
タカラジマウズグモだった

夜は、宿のすぐそばの大きめの沢へハシリグモ探しに出かけた。沢に入ると、水中になにやら大きなものが泳いでいる。オオウナギであった。あたりの岩をくまなく見ていったが、歩いていける範囲にはハシリグモの姿はなかった。いないのだろうか。でもアオグロハシリグモという記録があるのでどちらかはいるはずだ。帰りがけにシマコアシダカグモの写真を撮ることができた。



ギボシヒメグモの親子
右上に雄がいる

7月5日

今日は島の北部、トカラ列島の最高峰である御岳の麓方面に出かけた。道路わきの植生の下にシート網がある。トカラヤチグモであろうか。採集してみたが、まだ幼体であった。少し登ると、大きな空間がある。涸れ沢であった。なんとなくへんだ。白く固まっている。火山灰が固まったものなのかと思って近づいてよく見ると、なんとコンクリートが流されているのであった。岩

が流れないようにであろうか？その沢の上流側がなかなかよい感じであったのだが、ここでもスズミは見つけられなかった．石をはぐってハシリも探してみたかったが、大きな岩が多く、またしっかりと組み合わせられていることが多くてほとんど動かすことができなかった．ふと見たササの葉の裏に、ギボシヒメグモの母子がいる．そしてその脇にはオスがいる．なんか妙だ．

登るにつれてスズミの出そうな空間とは思えない状態になってきたので、昼食をとって集落の周辺に戻ることにした．今日も御岳の頂上はガスって見えない．もどる途中、クマゼミの声がした．そして、なんとツクツクボウシが鳴いている．ニイニイとクマとツクツク．これもへんな取り合わせだ．結局、今日もチリは見つけることができなかった．

夜は港の近くの沢へハシリを探しに出かけた．昨日の沢よりも流れが少なくて感じがいい．ただ、すぐそこで断崖になっており、短距離で勝負をしなくてはならないが、入ってすぐにいた．手が白い．オオハシリだ．とするとこの大きさでは幼体だ．採集してみると、果たして、まだ幼体であった．飼育するしかない．何匹かほしいところだ．大きな岩を迂回しようとしたその時、その岩の表面にオスが見えた．アオグロのオスとはサイズの次元がまったく違う．やはりオオハシリだ．結局この2匹しか見つけることはできなかったが、オスが見つかったので安心だ．確実に同定することができる．



オオハシリグモの雄



トカラ馬の放牧場

7月6日

天気予報では、きょうは十島村には雷注意報が出され、日中は雷を伴った激しい雨になるとのことだったが、朝起きてみると薄日のさす天気であった．今日は、宿があるのとは反対側の島の東部へ出かけることにした．くねくねとした峠道を登りきる



御岳

と一気に視界が開けた．高原状態である．山頂をガスで隠した御岳やトカラ馬の放牧場などが高原の雰囲気盛り上げている．景色の写真を撮影していると、イッテンニワカニカキクモリ、急に雷が鳴り出した．雷雨だ．まいった．トカラ馬もいきなりの雷鳴に驚いてヒーンと鳴いて走り回っている．が、なんと数分で雷雲は去り、見る見るうちに雲が薄れてきた．そして、今回は見ることはできないだろうとあきらめていた御岳の山頂まで姿



アマミオニグモ

を見せたのであった．が、チリは姿を見せてくれない．小学校の跡地には、スズミに絶好の空間があったのだが、いたのはアマミオニグモであった．底なし沼の周囲でもなかなか空間の出来具合はよかったのだが、だめだった．遠くに口之島が見えた．うーむ．チリがない．帰り道に宿のすぐそばで、トゲゴミグモかマルゴミグモかのオスをやっと見つけた．沖縄ではトゲゴミグモは、海岸にはいやというほどいるのに、ここではあまり目立たない存在である．



底なし沼という水深 4m の沼

7月7日

今日は集落の裏の耕作地と島の東部でチリ搜索を続けた．途中、防災十島村役場で、今日の晩に出航予定のフェリーは欠航すると放送していた．台風3号の影響である．仕方がない、宝島訪問はキャンセルして、その次の11日の船で直接奄美に行こう．今日は、昨日とは違って東部のうちでも御岳の裾野の原生林を目指した．耕作地でだめなら一か八か原生林にかけてみた．ハラビロスズミでもいてくれないか．うまい具合に原生林に入っていく獣道のような細いふみあとがあり、楽に林内に入ることができた．木の感じがなかなかいいので、ナガイボグモがないかと思って幹をたたいてみたがいなかった．しばらく行ったところで小休止して引き返すことにした．ふと気がつくとも長靴に小さなヒルがついている．やはりヒルがいるか．と、ふと見やった先



口之島遠景

に、キムラやトタテの好きそうな土の斜面が見える。戸蓋の確認をしようと近づいた瞬間、左手に激痛が走った。イラガをさわったかと思って腕を見た瞬間、目の焦点が合う前にこんどは右ほほに激痛が。何かに襲われていると直感して、帽子で体の回りを払いながら数メートル走って逃げた。なにも追いかけてこないの、帽子についている網をおろし、そろそろさっきのところへ戻ってみた。すると下ばえの草に小型のハチが巣を作っているのがあった。これを蹴飛ばしてしまったようだ。こんどはハチを刺激しないようにそろそろと進んでがけを見たが、残念ながらキムラのとぶたもとタテもとぶたも見つからなかった。森から出るとズボンの腿に大きなヒルがついてる。しまった油断していた。ハチ騒ぎでヒルを忘れた。すぐに点検するとあと2匹ついていた。よく見たつもりがもう1匹を見逃していた。宿に戻ってふと気がつくと思えばかなりのズボンが血だらけだ。吸血したヒルを踏み潰したようだ。もう1匹着いていたのだ。くそ、チリが見つからず、泣きっ面にハチとヒルだ。

7月8日

今日はまず集落裏の砂防堤方面へ行ってみた。集落の近辺は、ガジュマルが茂り、ソテツもあってけっこうスズミ好みの空間ができていたが、結果は坊主であった。水道水源から裏の森へ入ってみた。ニホンヒメグモが時折見られたがチリは入っていない。がけちに

防空壕のような浅い穴が掘ってあった。沖縄ではこんなところではミナミユレイグモがわんわんと網を張っているのだが、ここでは静かな空間が広がっている。なかなか感じのよい森である。と思うまもなく、下ばえがササになってきた。後はずっとそのままのようだ。深い谷に当たったところで引き返した。来るときにヒルを目覚めさせているであろうから、帰り道にはときどき足を確認した。案の定、ときおり長靴にヒルがついている。森から出て一休みしていると、クロイワニイニイが鳴き始めた。この辺は沖縄っぽい。しかし、ツクツクボウシも鳴いているのだ。

午後は集落の南側へ回った。すでに初日に見て回った方面であるが、見落としているかもしれない。しかし、見落としてはいなかった。あるいは今回も見落と



私を襲ったハチ



ヒル

しまったのかチリは見つからなかった。せっかく来たので、小さな沢に入り、ナルコとヨリメを採集しておいた。台風からのうねりが入り始め、海岸では大きなしぶきが上がっている。台風はようやく加速し始めたようだ。早く過ぎ去ってくれるとよいのだが。



防波堤にくだける高波
(旅館の窓から)

7月9日

台風は西のほうにそれ、直撃は免れたがさすがに海はすごいシケだ。さんご礁に囲われていないので、うねりがそのまま防波堤まで来る。宿に部屋にいても大きなうねりが防波堤にぶつくと振動が伝わってくる。今日は、休養日にしてクモ分布図CDの準備作業をした。夜、台風4号が発生したと気象情報で言っていた。いままでシーンとしていたのに、いきなり次々と台風が発生するようになったようだ。

7月10日

朝の防災十島村役場で、今日のフェリーは名瀬行きの手配だったが、台風4号の影響で、宝島折り返しに変更して出航すると放送していた。奄美から飛行機で鹿児島に戻る計画は没になった。折り返してくるフェリーに乗って鹿児島に行かなくてはならない。中之島を出航するのは夕方だから、鹿児島に着くのは夜中だ。まあ仕方がない。結局、4泊の手配だった中之島に7泊することになった。着いたときに、宿の女将さんが、台風が来ると1週間船は来ませんよ といっていたが、火曜日について火曜日に乗るから、ぴったり1週間ぶりの船である。奄美からの飛行機と鹿児島のホテルの夕食とをキャンセルし、フェリーの切符を買ってから、最後の採集に出かけた。晴れて暑いので短時間決戦にし、ピーティングをした。クモがほとんど採れない。見つけ採りでほとんど何も採れないので、眼力が衰えてきたなあと嘆いていたが、ピーティングでもほとんど変わらないのでちょっと安心した。クモが少ないのだ。タニカワアシナガモが採れたのが唯一の成果だった。しかし、草地にチュウガタシロカネグモすらいないというのは、とても妙な眺めだ。草地にクモの網がなく、すっきりしているのだ。

夜は集落のすぐ裏の耕作地周辺を見て回った。内地ではトリノフンダマシ類、南西諸島ではゲホウグモ類が普通種ながら見ると一安心するクモたちだ。しかし、ここではどちらも見ることはできなかった。オオハシリでもいればと思って入った沢でもハシリグモは見られなかった。ただ、その沢で、どうしたことかオオシロカネの網にぶら下がっているハヤテグモ類(ミナミかハヤテか)を見つけたのが唯一の成果であった。

(終)

あーとみゅーじあむ mini



ワカバグモ？
初芝秋沙作



羊毛で作ったタペストリー
甲野 涼作

冊子のご案内

「日本産コガネグモ科ジョロウグモ科アシナガグモ科のクモ類同定の手引き」と題する冊子を作成しました。この小冊子は、A4 版カラー35 + 白黒 87 = 122 ページで、私のこれまでの研究成果を同定の手引きとしてまとめたものです。日本産として記録されたクモのうち、コガネグモ科 122 種、ジョロウグモ科 2 種、アシナガグモ科 44 種を扱っています。

カラーページには、各種の雌雄、網、色彩変異などの写真を撮影できた範囲でなるべくたくさん掲載し、白黒ページには各科、属、種についての簡単な説明と雄の触肢や外雌器など同定のキーとなる部分の形態図を掲載しました。カラーページと白黒ページのサンプルは次の URL でご覧ください。

<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/sample.pdf>

価格は本冊 3500 円 + 送料 290 円 = 3790 円です。

ご購入くださる方はメールまたは郵便でご連絡ください。折り返し振込先などをご連絡いたします。

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部生物多様性 谷川明男
dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信原稿投稿先：

通信担当 谷川明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

談話会通信次号の原稿締め切りは 2007 年 8 月末日です。ご投稿お待ちしております。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

会誌担当 池田博明 258-0018 足柄上郡大井町金手 1099

E-mail : fwg9084@mb.infoweb.ne.jp

東京蜘蛛談話会 2007 年度合宿について

東京蜘蛛談話会 2007 年度合宿を以下のように東京都奥多摩町・日原川流域の林道等で行います。30 名程度集まりますと宿が貸しきりになりますので、多くの皆さんの参加をお待ちしております。

日程：2007 年 7 月 21 日（土）～7 月 23 日（月）

宿泊：奥多摩温泉郷 【観光荘】 東京都奥多摩町氷川 1765 Tel 0428-83-2122

費用：宿泊費（1泊3食付き旅行保険＋通信費込み）大人 10000 円，中学生 7500 円，小学生 6000 円

この他に、各自支払いでバス代（2日間）で 2000 円程度かかります。

浴衣，歯ブラシ，タオルはございません。ご持参下さい。

交通：A．電車 東京駅から JR 中央線で立川駅まで約 50 分

立川駅から JR 青梅線で奥多摩駅まで約 1 時間 10 分

立川駅から奥多摩行きをご利用ください。

立川駅から青梅行きで、青梅駅から奥多摩行きもご利用できます。

西武拝島線経由で拝島駅から JR 青梅線で奥多摩駅まで約 1 時間

B．自動車 中央自動車道八王子 IC から国道 411 号で約 1 時間 10 分

圏央道青梅 IC から青梅街道で約 50 分

予定：21 日 夕食後 日原川沿いの遊歩道にて夜間観察

22 日 朝食後 バスにて倉沢林道入り口に移動・採集

夕食後 不老林道にて夜間観察

23 日 朝食後 バスにて日原鍾乳洞に移動・採集，昼食後解散

上記のように、バスにて移動予定です。林道には自動車の駐車スペースが非常に少ないため、**自家用車での移動は基本的に行いません。**ご協力をお願いします。

申し込みは、**6 月 10 日**までに下記に申込書に必要事項を記入の上、

〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18 203 有限会社 エコシス

Tel:042-501-2651 Fax:042-501-2652 e-mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

初芝伸吾宛に郵送，Fax して下さい。e-mail の場合下記と同様の情報を送信して下さい。

早めにお申し込み下さい。申込者には、別途詳細な日程と交通の案内をご連絡致します。

.....キ.....リ.....ト.....リ.....

東京蜘蛛談話会奥多摩合宿に以下の様に参加します。（×を記入して下さい）

7 月 21 日（土）（ ）

22 日（日）（ ）

23 日（月）（ ）

宿まで自動車で参加します（ ）

住所 〒 -

氏名

連絡先 Tel

e-mail